

どのした淵

【オミクロン感染衰えず】

「元気はつらつオロナミンC」は元気の源でいいのですが、オミクロンは早く衰えてほしいものです。

県内はもとより町内でも感染者が増加しており、今回は年少者への感染も確認されました。誰がどこで感染してもおかしくない状況です。まんえん防止等重点措置も適用され、しばらくは自粛期間が続く感じですかね。(今の所2月20日までかな) どの誰が感染したのかと浅酌をしたり、誹謗中傷するのではなく、自分が感染しないためにいつもより厳重に予防対策をお願いします。

2月開催予定の町綱引き大会、町民大会は中止になり、11日に行われる原子力防災訓練では、泊野地区住民も参加して訓練を行う予定でしたが、行政機関だけでの実施となりました。

そんな中、第69県下一周市郡対抗駅伝競走大会が19日からスタートします。選手の皆さんは1年間この大会に向け一生懸命練習に励んできました。さららの楽校から泊野方面まで走る合宿風景を見られた方もおられると思います。大会本部からは沿道での応援自粛を促されておりますので、早春を告げる選手の力走に「心で応援をしたい」と思います。応援グッズ「水色タオル」の欲しい方はお知らせください。



発行責任者

高峯公民会長

三 腰 善 行

090-1089-9432

令和4年2月1日発行

【新年早々・置き去りごみ】

1月のごみ回収において、置き去り(回収されない)ごみが存置されていた。なぜ回収されなかったかという点、不燃ごみの日(17日)に資源ごみ(空き缶)が出してあったからです。不燃物回収の日に空き缶を出しても回収されません。空き缶は燃えないかもしれないが、不燃ごみではありません。今一度ごみ出しカレンダーを確認し資源ごみの日に出してください。



それから過日資源ごみ回収ボックスの中を覗いてみましたら、白色トレイの分別がまちまちな感じがしました。白色トレイとは素材(原料)は関係ありません。白い色のトレイであればすべて同じボックスに入れてください。その他プラの中に納豆・豆腐の白色トレイが多く混ざっているのが見受けられました。ごみの分け方・出し方のポスターをご確認ください。軽く洗浄は言わずもがなです！

たかね寺小屋く持続可能な地域づくり

なぜごみの分別をするのか！

【第1に】経費の節減です・・・令和2

年度のごみ処理経費は年間1億8千万円(人件費は含みません)です。主にはクリーンセンターの指定管理料・収集業務委託料・修繕料・光熱水費です。ごみを燃やすための燃料費も多大な金額にあがります。家庭から出る生ごみの水分量は約8割で、燃やすごみ全体の約2割が水分であるという試算がされています。さつま町では令和元年度から生ごみを分別収集し堆肥化しています。それではごみに含まれる水分に油をかけて焼却していたようなものでした。皆さんが分別を徹底し焼却ごみを減らすことは経費節減に直結します。何気に燃えるゴミに出している、紙とプラスチックをその他紙・その他プラの資源ごみに分別し出すだけで焼却量も経費も減らすことができます。やればできる「出来る人が出来る事を出来る時に」の取り組みで、一番手軽にやれる事ではないでしょうか。今日から実践しましょう。習慣づけが大切です。焼却ごみゼロの地域づくりに挑みましょう。

【ふるさとの味】にひとそえ

きらら米の生産拡大・ブランド化・ファン増大・荒廃農地を優良農地へ・・・様々な思いがあり、皆さんが遠方の親戚等に送られている農産物等に、地元きらら米のチラシ(写真参照)を添えてみませんか。

今、きらら米の販路開拓のため、ふるさと納税対象品に選定してもらうべく、きららの楽校取扱品とのコラボも検討中です。今後ますます人口減が進めば、コミュニティーの在り方も検討していかなければなりません。そういう事も見据えて、これからはそれぞれの区ごとの取組だけではなく、協働の事業展開を模索していく必要があります。泊野川(きらら川)流れは、元紫陽中学校区で新たなコミュニティー領域としてはくくりやすいのではないかと思っています。ゆくゆくは、きららの楽校は泊野小学校も取り組んだ事業展開に繋げないといけないと思っています。

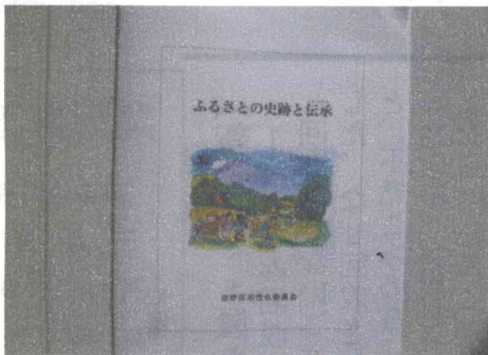


品名	単位	価格
第一種米	10kg	1,200円
第二種米	10kg	1,100円
第三種米	10kg	1,000円
第四種米	10kg	900円
第五種米	10kg	800円
第六種米	10kg	700円
第七種米	10kg	600円
第八種米	10kg	500円
第九種米	10kg	400円
第十種米	10kg	300円

【ふるさとの史跡と伝承】完成間近

令和3年度活性化委員会の取組として、何回か紹介してきた『ふるさとの史跡と伝承(いいつたえ)』ですが、活性化委員会の文化民生部会で編集会議を開催し、印刷業者に発注しました。発注をかけてから幾度となく校正・追加・修正を繰り返しながら、なんとか年度内には印刷製本が完成しそうです。ベースは平成10年に出来ていたものですが、今回写真や絵手紙作家小向井一成さん(宮田出身)の絵も挿入して、リニューアルしました。

また、編集委員から新しく出された箇所もふんだんに取り込むとともに、逸話や興味を引く情報については、いくつかのテレビアも網羅しました。完成品は区各世帯に1冊ずつ配布するとともに、関東・関西のきらら会の皆さんにも贈呈しようかなと考えています。その後、余分があったら販売するかもしれません。まう配つてみらんや分かりません。ということを楽しみに待つといってください。



稿原紙表の階段正校

編集後記「田の神つるふりつる」

1月15日、薩摩勤労福祉センターで『あなたのそばで県議会』が開催されました。北薩横断道路関連として「取り残され集落解消対策について」として事前質問をし、泊野インターからどのした淵までの川沿いにある遊休農地(地目はほとんどが原野)を活用して、キャンプサイト(太陽光発電)を整備と、脱炭素社会に向けて自然エネルギー(太陽光発電)事業を自治体が事業主体となり施行し、売り上げを地主と分配する仕組みについての政策提言をしました。財源としては、原金交付金の対象範囲を広げること、電源立地交付金の適用を事業実施に係る経費にも充当出来るようにすることも提案しました。また、ふるさと納税のなかに本籍地納税として、都道府県民税の一部を充てることにより、真のふるさと納税につながるのではないかとも思ひも伝えた所です。

そして16日には平川・白男川・泊野の農業委員・農地利用最適化推進委員の皆さんと当該地の活用について意見交換をしました。

高齢化・人口減は如何ともしがたいですが、高規格道路の全線開通前に、なんとか地域の魅力発信・入り込み客の取り込み(交流人口増)につながる種まきができたかと思っています。高規格道路を通行しながら高架橋から眺める泊野は何とも例えがたく良い雰囲気山里集落を形成しています。この地域を存続し、ますます魅力ある所、人々が集まる集落に発展させていきたいものです。